

令和6年度第1回狛江市立公民館運営審議会会議録

- 1 日 時 令和6年4月30日(火) 午後6時30分～8時
  
- 2 場 所 中央公民館 第3会議室
  
- 3 出席者 斎藤謙一委員、都築完委員、天野泰子委員、伊勢亀慎司委員、内海貴美委員、細谷明美委員  
  
事務局(瀧川直樹公民館長、菊野有希子主任、中川秀太郎主事)
  
- 4 欠席者 伊東達夫委員、長岡智寿子委員
  
- 5 傍聴者 4名
  
- 6 資料 資料1 令和6年度 狛江市立公民館運営審議会体制について  
資料2 東京都公民館連絡協議会委員部会  
資料3 こまえ公民館だより編集担当  
資料4 ティーンズルーム等の検討の方向性について  
資料5 令和6年度 公民館事業評価シート(おはなし会)  
資料6 第9回公民館運営審議会議事録  
資料7 第10回公民館運営審議会議事録  
その他 おはなし会 チラシ

## 7 議 題

### (1) 開会（委員長選任まで暫定的に事務局が議事を進行）

- ①事務局からあいさつ
- ②各委員からあいさつ

### (2) 審議事項

#### ①令和6年度狛江市立公民館運営審議会について

- ・正副委員長の選任

委員からの推薦により、斎藤謙一委員が委員長に、都築完委員が副委員長に選任される。

（以降委員長が議事を進行）

- ・東京都公民館連絡協議会委員部会委員の選任

内海貴美委員と細谷明美委員が選任される。

- ・公民館だより編集委員の選任

資料3に基づき、事務局より説明

斎藤謙一委員長と伊勢亀慎司委員が選任される。

#### ②東京都公民館連絡協議会について

資料2に基づき事務局より説明

内海貴美委員から4月の委員部会の報告と今後のスケジュールの説明

③会議開催スケジュールについて

資料1に基づき、事務局より説明

④諮問事項（ティーンズルーム等の検討の方向性）について

委員長：これまでの経過を改めて確認する。昨年度、武蔵野プレイスとb-labの施設見学に行った。特にb-labは非常に参考になったので、良いところを取り入れていきたい。

事務局：来年度予算への反映を考えるに第2回から第4回まで素案としてまとめ、第5回で答申案としてまとめていきたい。事業評価についても同時並行で行っていく予定である。

資料4、資料6、資料7に基づき事務局より説明

委員長：他部署との連携をとらなければ、部署ごとに同じようなことを実施し、中途半端になってしまうことを危惧している。子どもの居場所を作ろうという動きが他部署であるのか。

事務局：福祉部門では空き家を活用した居場所づくりや高齢者の居場所づくりを行っているが、子どもの居場所づくりについては、具体的に新しい動きが進んでいる話は聞いていない。

委員長：では公民館が主体となって他部署に連携を呼びかけるべきである。

委員：フリースペースにするか目的を持って使う部屋にするのかということも考えなくてはならない。双方のいいところを取り入れて活かしていけば中高生のたまり場のようなものが作れるが、見守りスタッフを用意しなければうまくいかない。b-1abの周りには大学が多数あり、途切れることなくボランティアが続いていたが、狛江はそのような条件がないため苦勞することになる。

委員長：ニーズの把握も重要である。中高生向けのアンケートという話も出ていたが、b-1abのような施設が近くにないため、イメージが湧きにくい。

委員：放課後の活動場所が欲しいということであれば、市民センターの改修で防音室が作られるため、そのようなところを中学生を中心に働きかけをすれば実現の方向に向かう。学校や教育委員会を通じて積極的に働きかけを行うべきである。

委員長：学校に無いクラブ活動や部活動の場が欲しい。学校の活動に参加していない生徒に入ってもらうことで、サークルのような自主的な活動になっていくのではないか。主体が子どもたちであるということも答申に入れたい。

委員：b-1abでは運営審議会の中にPTAが入っていた。PTAを入れることによって親に施設への理解や活動の把握をしてもらえる。単に公民館から情報を

発信するよりも、子どもたちに情報が伝わりやすい。

委員長：b-1labに関わっているのは公立の学校のPTAだけであったが、利用者は私立の学生が多かった。そのようなことは狛江では考えにくい。

委員：PTAを巻き込めればお子さんがボランティアスタッフ等になってくれるかもしれない。

委員：PTAが特定の学校にかたよると、他の学校の生徒が来にくくなる可能性もあるので注意が必要である。

委員長：学校が嫌で自分たちで活動したいという学生もいると考えられる。

委員：近年では父母会が学校を中心にできあがってきていて、市内でも協力体制ができている。市民目線に近いところでやるということも大事なポイントになる。

委員：ボランティアスタッフでお願いするなら、近隣の大学に直接依頼した方がいいと考えている。興味がある大学生はいると思う。市内の学生だけでなく近隣の大学を巻き込んだらどうか。

委員：公民館が直接ティーンズルームを管理運営するということは厳しいのか。

事務局：現在の公民館職員だけで想定している全ての事業を行うことは、現状としては厳しい。

委員：委託等も視野に入れて考えていく必要があるのではないかと。

委員：大学生のボランティアを募った上で、その管理をする職員を配置する方向で法人等に委託してはどうか。

委員：大学生のボランティアを募るにしても、うまくまとめて運営していく方法を経験のある法人に聞くことができれば参考になる。

委員長：現状の市の事務職員に子どもを支援する専門のスキルがあるわけではないので、外部であれ内部であれ専門知識のあるスタッフは必要だと考えている。

委員：専門知識を持つ人を運営に入れた方が良いのではないかと。

委員長：専門知識を持っている人が運営に入るべきということは答申に入れ、職員だけでは運営できないということを納得してもらえるような答申にしたい。

委員：開設当初に専門スタッフを配置するかよりも、まずは具体的な事業内容を考えるのが先ではないのか。

委員長：b-1abのような施設を目標に事業を行っていきたいという思いは委員全体で共有していると思っている。実現するためには予算化が必要である。

委員：開設初年度だけではできないことも多く、中長期的に考える必要がある。

事務局：1年目の姿と5年目の姿があるとすると、どちらを中心に議論をするのかという問もあるが、基本的には両方考えなくてはならないと思っている。

委員長：b-1abのような施設を作るという目標を持ちつつ、まずはできることを一歩ずつ進めていくことができればよいのではないか。

委員長：来年度の予算に反映させるためにも、9月までには答申を出したいと考えている。長期的には業務委託や指定管理を考えていくことも答申に入れたい。

委員：今回の改修でサウンドスタジオをつくる。その場所を活かす方向性の一つがティーンズルームを中心とした事業であるということを答申できればいい。

委員：将来的に子どもたちに公民館を利用してもらうための第一歩としてティーンズルームを有効に活かしていこうという答申の方がよいのではないか。

委員長：若者が自主的に活動できるグループを作るとするのが良い。そのために中高生のためのイベントを仕掛けて反応が良かったものをグループ化してもらおうという方向性が良い。

委員：専門知識を持っている方に、設立のノウハウや経験談を聞いてヒントをもらってから答申する方が良いのではないかな。

委員：中高生にはどのように話を聞くのかな。

委員：アンケートはどうか。

委員長：アンケートでは生の声が聞けないのではないかな。公民館を知らない子どももいる中で何がしたいか聞かれても困る子どもが多いのではないかな。公民館に興味がある子どもにアプローチをしていくことが効果的である。

委員：生徒会の役員も普段から活発に活動しているため、アプローチすると効果があるのではないかな。

委員：岩瀬元委員に話を聞いてからの方がよいのではないかな。

委員：9月までに間に合わないのではないかな。

委員長：1か月に2回以上審議会を行ったり、有志で勉強会を開く、ヒアリングに

行くという手もある。

委員：前回の視察では見学しただけだったが、今後は今回の議論を踏まえた上で話を聞くこともできる。

委員長：当事者の声を全く聞かずに審議して、結果、利用者がいないということは避けなければならない。現在、高校生のみで構成されている利用団体はあるのか。

事務局：高校生中心の利用団体は現状としてはほとんどない。

委員長：高校生が主体となっている団体がないのであれば、新たなターゲットとして開拓していく必要がある。

委員：狛江高校の親の会でダンス部や軽音学部が市外で練習場所を借りていると聞いたことがある。もし公民館に防音設備がある部屋ができると知ってもらえれば利用の方法などが変わる可能性はある。

委員：市のLINE や Facebook などを活用して意見を聞くことはできないのか。

事務局：市の Facebook や X（旧 Twitter）を活用することは可能である。

委員：まずは意見を募って反応を見て、事業について一緒に考えたり、施設の見

学にいってもらえることもできる。

委員長：専門家や中高生から話を聞くということを同時進行で行っていきたい。

#### ⑤諮問事項（公民館事業評価 おはなし会）について

資料5に基づいて事務局より説明

委員長：公民館図書室と図書館は別組織であるにも関わらず、公民館としての特色  
が出せていないのではないかと。

事務局：映像資料は公民館図書室にしかない。こういうものを活用できたらいいと  
は思うが、現状はあまりできていない。

委員：中央公民館で読み聞かせのボランティアをしているが、公民館のおはなし  
会もボランティアで運営できないのか。

委員：予算や参加者のデータなどが足りず、何を基準に評価すればよいか分から  
ない。

事務局：次回、補足の資料を作成するため、持ち越しとしていただきたい。

#### (3) 報告事項

- ・新委員について

事務局より説明